

ris, *E. obliqua* は他の種類に比べて発芽力が低いように思われる。

(3) *E. gunnii*, *E. punctata*, *E. flaxinoides* は発芽率42~78%, 発芽勢33~54%で前記2グループの中間に位する。

本試験に供した種子の採取年月日が不明な上、唯1回の試験で断定するのは早計であろうが、種子の外観的調査とを併せ考えれば次のような傾向がうかがわれる。

即ち発芽力の高い種類は大部分円形又は楕円形状か或は、その楔形で、光沢の無い黒褐色を帯び臍と思われる凹を有するものが多いのに比べ半円形状が長方形の楔形で褐色味の強い種類は発芽力が低いように思われる。又 *E. gunnii* 及び *E. punctata* が発芽力の高い種類の形状、色沢に類似し *E. flaxinoides* が発芽力の悪い種類に類似していることから以上のような事がいえると思う。

なお発芽力は種子の大小には関係なし、小粒種子が必ずしも活力が弱いとはいえない。

IV *E. globulus* の播種量について

他の種類は種子の数量が少く、優良不良種子の判別が困難で、しかも時間的余裕もなかつたので、*E. globulus* だけにつきその概略を述べることにする。

播種量算定の因子は次の様な方法で測定した。

(1) 粒数資料種子の中から任意に2grを6組秤量し優良種子のみ粒数を測定してこの平均値を算出した。

(2) 圃場発芽率事業用播種床10ヶ所の平均発芽率33%を使用した。

(3) 種苗消失率種苗発生後ケラや除草、自然枯死等の消失率を30%と仮定した。

(4) 仕立本数床替前の m^2 当仕立本数は1,000本を目標とした。

第 3 表

種 類	2gr 当			m^2 当播種量
	優良種子粒数	発芽本数	残本数	
<i>E. globulus</i>	950	314本	220本	9gr

発芽試験器での発芽率は83%であるが、実際苗圃では、ケラや蟻、並びに覆土の厚薄、灌水等の人工的な発芽の抑制が伴い当場では33%の圃場発芽率を示し上表のとおり圃場における m^2 当りの播種量は9gr内外が適当である。

他の種類については圃場の発芽率が算定できず遺憾であつたが、前記の発芽力を参考にして播種量を決定すれば失敗は少いと思う。

五島における椿の外部形態と豊凶性との関係

長崎県南松浦支庁 松 井 時 雄

1. 調査の目的

採実用椿林の栽培並びに増殖上、その外観的特徴から、結実の良否、採油率、油質などがわかれば非常に好都合である。長崎県の広葉樹林中には、至るところ椿の天然生を見るが、なかんづく、五島においては広葉樹林中に必ずといってよい程椿が混生しており、又純林をなしているものも頗る多い。

すなわち、自然に生立している椿の主要な外部形態の特徴と結実豊凶性との関係を発見して、優良な形質をもつ椿林育成に資しようとするのが、今回の調査の目的である。

2. 調査の方法

(1) 供試木の選定

五島南端の福江島において、地方的に著名な豊産樹のうちから8本の個体と、代表的な凶産樹2本を選ん

だ。

(2) 調査資料の採取方法

どんな時期に、樹冠のどの部分から採取したものが標準資料としてもつとも適しているかは注意すべき点であるが、今回は応用的見地から、採取の時期を同じくして、肉眼的に直感的に標準と認められるものを採取した。

(3) 採取の時期及び採取箇所

葉及び果実 昭和27年8月下旬。

花 昭和29年2月上・中旬。

(4) 外解の特徴の測定方法

区分	形	大 小	厚 さ	色
葉	縦長横長比	肉眼的	肉眼的	肉眼的
花	〃	重 量		
果 実	〃	〃		

葉，花，果実について左記の測定をなしたるはか全体の樹形，樹皮の色について調査した。

第 1 表 楢の葉の形，厚み，色と豊凶性

順位	形	横長/縦長	厚み	色	供試木	
					番号	豊凶性
1	巾広	0.618	厚	濃 緑	8	凶
2	〃	0.610	中	〃	6	頗豊
3	〃	0.571	〃	〃	1	豊
4	〃	0.507	〃	〃	5	〃
5	〃	0.486	〃	〃	3	凶
6	〃	0.466	厚	〃	2	豊
7	〃	0.415	中	〃	7	頗豊
8	〃	0.413	厚	〃	10	〃
9	〃	0.404	〃	〃	4	豊
10	細長	0.369	中	極濃緑	9	頗豊

第 2 表 楢の花の形，大きさ，色と豊凶性

順位	形	横長/縦長	大きさgr	色	供試木	
					番号	豊凶性
1	開張大	1.2	4.9	紅	1	豊
2	〃	1.2	4.0	淡紅	5	〃
3	〃	1.1	4.5	濃紅	7	頗豊
4	〃	1.1	2.8	〃	8	凶
5	〃	1.1	5.8	紅	4	豊
6	〃	1.0	4.6	〃	9	頗豊
7	〃	1.0	5.2	〃	2	豊
8	〃	0.9	7.3	濃紅	10	頗豊
9	〃	0.7	7.0	紅	6	〃
10	開張小	0.6	4.4	淡紅	3	凶

3. 調査のとりまとめ

第 1, 第 2, 第 3 表の通り。

第 3 表 楢の果実の大小と豊凶性

順位	形	横長/縦長	大きさ(重量)gr	供試木		備 考
				番号	豊凶性	
1	扁平	1.24	15	8	凶	逆へうたん
2	〃	1.22	26	2	豊	たなばた
3	〃	1.16	66	3	凶	やまおう
4	〃	1.15	27	1	豊	
5	〃	1.08	40	9	頗豊	へうたん
6	〃	1.00	41	5	豊	
7	〃	0.93	38	10	頗豊	
8	〃	0.93	33	6	〃	
9	〃	0.92	26	7	〃	
10	細長	0.74	35	4	豊	

4. 結 論

(1) 豊産樹は葉，花，果実の外部形態に一定の傾向を認めることは出来ない。

(2) 同 1 個体の葉，花，果実相互間にも近似点を認めることは出来ない。

(3) 凶産樹についても同じことがいえる。

(4) 凶産樹と豊産樹にはつきりした相違点を認めることは出来ない。

従つて遺伝的性質の固定した品種と称し得るものは無いようで，外部，内部何れの特徴も個体変異に過ぎず，将来優良種の固定増殖をはかるには，現在ある，結実優秀な個体から挿木による無性繁殖を行ない，一方において不良樹を駆除し，クローンの造成をはかつて優良品種固定の方向に進むべきものとする。

濠洲産ユーカリ 10 種の種子に就て

九大農学部 原 田 盛 重

昭和29年3月29日に濠洲の Canberra にある林業局の Rodger 局長からユーカリ種子10種送附されたのであるが，これ等の種子に就いて調査試験結果の概要を述べれば次の通りである。

(I) 種子の色と光沢

(1) 黒色を呈し無光沢のもの

Euc. globulus

(2) 黒褐色を呈し脂肪光沢を有するもの

Euc. pauciflora

(3) 黒褐色を呈し無光沢のもの

Euc. toreticornis

Euc. botryoides

(4) 暗褐色を呈し脂肪光沢を有するもの

Euc. fastigata

(5) 褐色を呈し無光沢のもの

Euc. robusta

(6) 褐色を呈し脂肪光沢を有するもの

Euc. pilularis

Euc. gigantea